

2014国際教養科 NEWS 7月

国際教養科特別授業① 講演会(7/11)

7/11（金）に、外務省国際協力局事業管理室審査役の和田康彦先生を講師として、国際教養科1～3年生全員（123名）を対象にした講演会を行いました。「国際社会の開発課題と日本のODA」という演題でご講演いただき、豊富な資料を使って様々な側面から見た日本や世界各国の現状を細かい数値で示して下さい、各国間でどれほどの違いがあるのかよく理解できました。

講演会は、大変好評で、ご講演後は生徒から質問が尽きることなく多く出され、また生徒の感想文からもこの講演会で深く考え、学んだ様子がうかがえました。

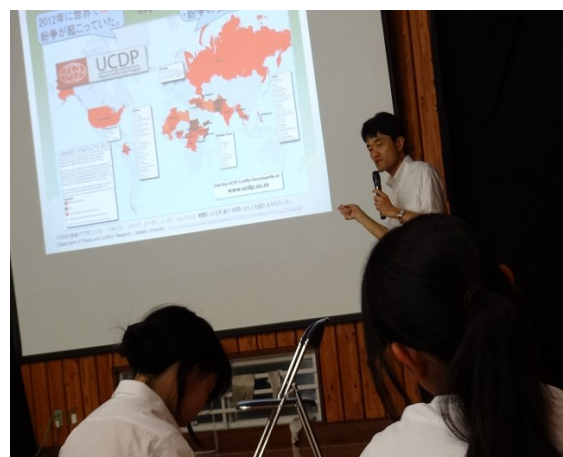
- 1 目的 国際協力 60 周年の今年、国際協力や政府開発援助（ODA）について、グローバル人材育成等の観点から講演を実施する。
- 2 実施日時 7月11日（金） 13：15 ～ 15：35 （格技室にて）
- 3 内 容 60分（講演）＋30分（質疑応答、生徒代表お礼の言葉）
25分（感想文アンケート記入）
- 4 参加生徒 国際教養科1～3年全員（123名）
- 5 講 師 和田 康彦先生
○長野市生まれ
○長野県立長野高校卒
○慶應義塾大学法学部政治学科卒
○JICA（独立行政法人国際協力機構）職員
○現在、外務省（国際協力局事業管理室）へ出向中
○海外勤務経験：サウジアラビア、エジプト、南スーダン
- 6 演 題 国際協力 60 周年「国際社会の開発課題と日本のODA」
- 7 事前指導 外務省 HP からの事前資料を読み、各自で自分のテーマを持って主体的に講演に参加し、講師の先生への質問を事前に送付してご講演から積極的に学び取る。国際協力 60 周年記念グッズの配布。
- 8 事後指導 事後アンケートと感想文（日本語と英語の両方）提出



・世界が今どのような状況なのか、紛争がなぜ起こるのかなど、初めて知ることがたくさんあり、勉強になった。高所得国と低所得国との間に「差」が生じてしまうのは知っていたが、その差の大きさが信じがたかった。日本が行う支援について分かったのは、自分でも調べてみようと思えたから有り難かった。もっと知りたいと興味が湧いた。(3年)

・今の日本では想像できないことが世界で起こっているということが分かった。今私が置かれている環境に感謝しなくてはいけないなど、改めて気づかされました。(2年)

- ・ ODA や JICA について、今まで自分があまり知らなかったことについて、とても多くを知ることができた。和田先生は現地に行き、その地で活動することが楽しいとおっしゃっていたので、ODA に対するイメージが変わった。今回のお話はとても貴重だと思った。自分の進路を考える参考にしたい。(1年)
- ・ 貧困という言葉の重さの意味を深く知ることができて良かった。ODA の目的は「国際社会の平和と発展に貢献し、これを通じて我が国の安全と繁栄の確保に資すること」だが、現在イギリスや日本のように援助に対して、見返りを求めている国もあることを知った。日本の食料自給率は約 4 割で、食品やエネルギーは開発途上国からの輸入に頼っている状況です。資源が手に入らなくなれば、我々の生活は成り立ちません。つまり、開発途上国なしでは生きられません。だから、今よりも援助費を増やしていかなければいけないと思いました。じゅうてん課題の 1 つである「平和の構築」は目標が漠然としていて具体的な内容や政策がよく分からない。LDC(Least Developed Country)をまず優先的に援助すべきだと思う。最近 W 杯でよく目にするコスタリカが貧しい国だと知って心底驚いた。アフリカに比較的多く貧困国があることを知った。(3年)
- ・ ODA はただ物資やお金を贈り、環境を整備するだけだと思っていたけど、援助される国が自主的にできるための効果的なプログラムを作っていて、さらにステキな取り組みだと思うようになりました。今回 1 番心に残っていることは、携帯電話の普及率が高いということなんです。生活していく上でお金は絶対必要で、携帯電話があれば金融機関にアクセスできると聞いてなるほどと思いました(2年)
- ・ ODA は途上国に援助していることは知っていたけれど、援助はお金だけでなく、技術協力の援助・人材育成援助などを行っていることを知り、考えが変わりました。(1年)



・日本の貧しさや外国の貧しさでは違うことが分かった。日本ではあつて当たり前なのが外国では無かつたりしてショックなこともありましたが、世界の様子が分かつて良かった。日本にも貧困で苦しんでいる方が多いのに、どうして外国ばかり支援、支援というのか疑問に思っていたので、貧困 1 つとっても、種類があつて、日本と外国ではまるで違うのだと気づき、とても勉強になりました。まだまだ視野が狭いなと感じたので、今日の講演をきっかけに、開発途上国のこと、そして日本のことも知りたいと思いました。(1年)



・日本と発展途上国、世界、後発開発途上国の所得格差、衛生、栄養不良などの面から比較し、開発途上国の現状を知ることができ、国際協力に関して、もっと関心を持つことができました。先生が最後に「自分を縦と横の視点から捉える」ということを意識し、また、国際協力のために自分は何ができるか、日本の協力費用を 0.7% に近づけられるよう何ができるか考えていきたいです。(2年)

・援助は軍事的に使われないようにすることや、物をあげるだけでなく、持続性を重視していること、援助した国が援助する国になれるようにするところまで考えていることに感銘を受けました。しかし、質の良い支援の一方で、日本が未だ世界的基準である 0.7% を達成したことがないなど、まだまだ先進国としてやるべきことがたくさんあることを改めて理解することができました。今の私たちの世代もいつかはこの日本を背負っていくこととなります。今日和田さんがおっしゃったように、世界、日本など様々な事に関心を持つこと、そしてたくさん経験を積み、今ある世界について考えていけたらいいなと思います。今日の講演はそのきっかけになったと思います。(2年)

・個人的に衝撃だったのは、1,000 人あたりに無くなってしまふ 5 歳未満児の数です。日本では 4 人に対して途上国では 83 人、LDC に至っては 153 人と約 10 人に 1 人は亡くなっています。LDC では、環境も良くない上に医師や病院が不足しているために生まれて間もない子供が犠牲になっていると思うととても心苦しいです。私はこの 17 年間何の不自由もなく生きてきましたし、恐らくそれ以上に恵まれた環境で育ってきました。そんな中、別の国では、貧困や紛争があり満足に生きることができない人々がいるということを決して忘れません。もっと私にできることはないのか、もっと大切なことを見落としていないか、探します。私には時間がたくさんあります。その時間を無駄にしない生き方をしていきます。(3年)

- ・日本では内戦が起こることはないので、世界で内戦がたくさん起こっていると知ってもあまりピンときませんでした。独立してからも価値観の違いや利権争いなどで、又内戦が始まってしまうと聞いて、内戦が増え続けている理由が少し分かった気がしました。独立するまでは強かった団結が、独立したことによって無くなってしまふなんて悲しいと思いました。支援には3つの種類があるということにびっくりしました。日本はお金の方の支援は十分ではないけれど、高い技術は持っていると思うので、技術支援がもっと増えていけばいいなと思います。私もいつか何らかの形で支援できるようになりたいです (3年)
- ・自分の住んでいる国がこんなにも豊かで開発途上国の人々と差があることが分かりました。自分たちは何不自由なく生活しているにもかかわらず、二酸化炭素を多く排出し環境を悪くしていることについて残念に思いました。国際協力には幅があり、どんな所でも協力はできることが分かりました。私たちがかつて援助してもらった側として、今は援助を行わなければならないと思いました。(3年)
- ・自分が知らないこと、知っているつもりになっていたことは世の中にたくさんあると思った。テレビから得るメディアの情報が全てじゃないと思った。(3年)
- ・長野出身の方が講師ということもあり、身近な存在として聞けたし、こんなに素晴らしいお仕事を世界に羽ばたいている方が、長野にもいるんだと感激しました。今回の講演で、難民にも種類があるということを知りました。国内避難民は経済面や治安面、家族の問題によって国境を越え援助を求めにいくことができないと聞き、国内でももう少しその様な人々を守る方法は無いのか、又難民受け入れを拒否する国の理由を知りたいと思いました。これからは国際社会に目を向けて、視野を広く生活しようと思います。(3年)



・日本が世界への国際協力を開始して60年という節目の年を迎えて、日本は他のアメリカやイギリス、フランスなどの先進国と違い、現在支援をしている発展途上国のように戦後に様々な国から支援を受けていた時代があります。それは、日本にしか分からないことがあるということです。支援される側の国の気持ちが分かるということを生かしながら、日本にしかできない国際協力をしていくことが大切だと思います。(3年)

・世界中で139カ国というとても多い国が開発途上国であるということを知って驚きました。そのうち49カ国が後発開発途上国というより苦

しい生活をしている国があるということでした。世界人口の5人に1人は貧困、後発開発途上国の2/3の子供が中学校に行けないということでした。私は今、学校に行き、きれいな水を飲むことができきれいなトイレを使えるけれど、そうでない人が世界にはたくさんいると聞いて、生まれる場所、国が違うだけでその様な差ができてしまうのは悲しいことだと思いました。私は今、自由に進路を決めることができ、自分のやる気次第で何でもできるだろうと思っています。しかし、学校に行けない子供は勉強ができず、児童労働をしています。学校に行けなかった子供は自由にやりたいことができないのだろうと思います。幼いときから働いて、大人になっても学校に行けずに、知識などのハンデを持って生活しなければなりません。私だったらその様な生活は耐えられないと思いました。だから、世界の苦しい生活をしている学校に行けない子供を、もっと助けてあげてほしいです。(3年)